



学生団体ディスカバリー 琉球大学

◇活動目的

『人と自然が共生する社会の実現』をビジョンとし、人と自然が共生する営みが多く残る農村と若者をつなげ、農村にいきづく営み、価値観の体感できる場づくりを行っている団体である。



ワークキャンプ



散策マップづくり

ただ農村×若者のつながりをつくるのではなく、、
農村の抱える課題と課題解決アクションを行う若者
という関係でつながりをつくれます。

農村地域の課題

過疎高齢化、耕作放棄地の増加
伝統文化の消失の危機
仕事がない、活気が無い
コミュニティーの希薄化 etc...



若者による 課題解決アクション

- ・ワークキャンプの開催
- ・散策マップの作成

◇活動拠点(2013年7月4日時点)

- ・字嘉陽 名護市東海岸二見以北 10 区地域
- ・久高島 沖縄県南城市



◇ディスカバリーワークキャンプ

◎内容

ボランティアワークを通して『農村×若者』のつながりをつくるワークキャンプイベント

◎開催

- 2012/09/09 vol.1@じんぶん学校
- 2012/09/18 vol.2@久高島
- 2012/11/17 vol.3@久高島
- 2012/11/23 vol.4@名護市東海岸
- 2012/12/16 vol.5@久高島
- 2013/05/03 GW キャンプ@久高島

◎成果

・交流人口…総参加者:64名

琉球大学、沖縄国際大学、社会人

・学生からの感想

自給自足の生活、近所同士の交流、今の私達の暮らしの中で失われつつあるものを見る事が出来て良かった。

琉球大学 2 年次/H.M

道であったおばあとお話しをして「久高には仕事がない」という言葉が印象的でした。
自分は何ができるのだろうと思いました。琉球大学 2 年次/M.A

◎活動の様子



◇やんばる散策路プロジェクト@嘉陽

◎プロジェクト期間

2012 年 10 月～2013 年 5 月

◎内容

名護市嘉陽でフィールドワーク、聞き書き調査を行い、集めた情報をもとに散策マップ、ガイド活動を行っていく。目的としては、①学生の学びの場…調査の中で農的な精神文化にふれていく②集落の方が自らの集落に対する魅力再発見の場…ディスカバリーメンバーが感じた集落の魅力を共有する③集落外の人向けに魅力を発信…集落ファンをつくる

◎成果

- ・散策マップ完成
- ・ガイド活動のノウハウ
- ・新聞掲載 3 回



・区民の声



ディスカバリー
が来ることによ
って、区民の刺
激となった！

翁長区長



あなたたちは
嘉陽の誇りだ
よ！！

さよおばあ

・プロジェクト参加者の感想

私の地元では、畑はあるけども、そこで農作業をしているひととコミュニケーションがあるわけでもないし、「野菜はスーパーで買うもの」っていう意識が強い。嘉陽で聞き書きのフィールドワーク中に両手いっぱいのチンゲン菜をいただいたり、公民館にもってきたおおきな大根をいただいたり、食べ物はいつも愛情が籠っていたというか、繋がりのある食べ物だった。地産地消のいい例なのかもと思った。

ディスカバリー/琉球大学3年次/松本彩加

◎活動の様子

